

# 「動力車新聞」は、真実を報道せよ

1979年2月20日 (号外その1)



79.2.24

No. 43

国鉄動力車労働組合

千葉地方本部

千葉市要町二一九(動力車会館)  
(鉄電)二五八〇九・公衆電話(五三三)七二〇七

## 事実を隠すデマとペテンをばかすな

革マル分子、ついに本性を暴露

中央本部は、千葉地本凍結Ⅱ事実上の再登録攻撃の一環として動力車新聞号外(一九七九年二月二〇日付)を、千葉地本・支部の存在を無視して、一四〇〇組合員の家庭へ直接郵送してきた。

この事態こそ、「機関決定を否定する千葉地本」「決まったことはお互いに守ることを否定する千葉地本」などとなりふりかまわず、千葉地本への統制処分Ⅱ組織破壊策動を実行せんとする、動労内革マルとそれに追いつく一部反動分子のセクト的、暴力支配の本質を明らかにしたといえる。

われわれは、事実を事実として明らかにし、規約・規則を順守しかつまた、労働者の利益と運動の前進を計るものとして正しい「路線」を推進しなければ動労運動の発展はないと考える。だがしかし「中央本部」・革マル派と反動分子は、自から「機関決定順守」の前提であるべき、規約・規則―組織運営のルールをふみはずし、一〇一回定中委以降の事実をネジ曲げた、デタラメな、私物化した組織運営を「正当化」せんとする意図が、今度の「動力車新聞号外」の内容に、ありありとうかがえる。

本部は、五項目の解明要求に答えよ

われわれ千葉地本の態度は、すでに明らかである。

まずなによりも中央本部は、千葉地本組織二六号・二七号をもって提出した、五項目の解明要求に答えるべきである。千葉地本は「敵」「裏切り者」「再建のため・・・」などという発言が正しいのか否か、「関東青年部発第一号」・「動力車新聞一二六六号」が正しいのか否か・・・ハッキリと答えるべきである。

この当然の、解明要求に答えてこそ問題の解決があるのだ。

そのうえで「動力車新聞号外」を批判する。

第一に、

「動力車新聞号外」の書き出し部分を見ると、「一・三一『交流会議』成功のために中執委は十分なる配慮をもって慎重に指導してきた・・・『交流会議』は、・・・それぞれの立場から自由に発言を通じて対立点・問題点を明

確にし、動労組織全体としての「統一と団結」をかちとる出発点・・・。」と書かれている。

しかし、しかし、一般的にはその通りである! だとするならばわれわれは、何度でも要求する。一・三一「交流会議」の前提となるべき、五項目解明要求になぜ答えないのか?

東京地本立川支部青年部機関紙「暁」によれば「一・三一『交流会議』」は、「千葉地本再建のためだ」と動労内革マル及びそれに追いつく反動分子の本音を吐いているのではないか。「再建のための『交流会議』」など誰が認めることができるというのだ。

デマとペテンを書きつらねた「号外」

第二に、

「綾部君問題」の事実経過を無視しデマを書きつらねていることである。

石田中執が、千葉地本・支部を無視し頭越しに綾部君を呼び出そうとした事実を隠していること。

そして、一月一二日、千葉地本三役、組織部長と本部三役、組織部長の話し合いの場での事実を一八〇度ネジ曲げデマ報道をしていることである。

千葉地本が話し合いの場で主張したことは、①「一〇一回定中委以降数々の規約・規則―組織運営ルールを無視したやり方に対する中央本部の見解」、②「その頂点となった「綾部君問題」に対する中央本部の誤まてる指導に対して釈明を求めたのである。

これに対し、中央本部は、「綾部君問題」に対する千葉地本の意見は聞いた」「この意見を中執委に報告する」と答えたのではないのか。その後中央本部は、「綾部君問題」に対して何一つとして正式に千葉地本に「指導」をしてこなかったのではないか。

それを「千葉地本執行部の指導によって事情聴取が不可能になった」などと白を黒といいくるめるウソツパチをつくのはやめるべきだ。

われわれは、さしあたって紙面の都合上以上の点のみ、批判を加える。われわれは、「動力車新聞号外」の一言一句を怒りなしには読めない。ウン八百、三百代言である以上、動労運動を糾す意味から、中央本部は、直ちに「号外」を撤回すべきである。